

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																				
東洋医療専門学校	平成12年3月31日	太田 宗夫	〒532-0004 大阪府大阪市淀川区西宮原1-5-35 (電話) 06-6398-2255																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																				
学校法人大阪滋慶学園	昭和62年3月31日	浮舟 邦彦	〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原1-2-43 (電話) 06-6150-1301																				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																			
医療	医療専門課程	救急救命士学科	平成6年文部科学省 告示第84号	—																			
学科の目的	養成目標は救急救命士の国家資格取得にとどまりません。救急救命士として必要な知識・技術・職務観を修得させるとともに、傷病者とその家族そして救急医療に携わる各人・各機関の立場を理解し、末永く活躍するとともに指導的立場にもなれる救急救命士を育成することです。そのために救急活動・救急医療の経験豊かな優れた教員による質の高い講義と実習、さらに生活指導と就職指導を行い、救急救命士になるとの夢を持って入学した学生の希望を実現させます。																						
認定年月日	平成26年3月31日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
3	昼間	2912時間	1634時間	120時間	1158時間																		
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																		
240人	248人	0人	13人	64人	77人																		
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 100点満点、60点以上合格																		
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:7月21日～8月31日 ■冬季:12月21日～1月10日 ■学年末:3月31日		卒業・進級条件		学年を通じて所定の授業時間数の4分の3以上出席し、各教科の期末試験および模擬試験で、100点満点中60点以上の合格点を取ったもの。																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個人面談、保護者面談を経て補習を行う		課外活動		■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 DMAT・メディカルラー参加など ■サークル活動: 有																		
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成30年度卒業生) 消防機関・自衛隊・警察・病院など ■就職指導内容 キャリアセンターによる、社会人基礎力講座を開講 ■卒業生数: 78人 ■就職希望者数: 70人 ■就職者数: 60人 ■就職率: 85.7% ■卒業者に占める就職者の割合: 76.9% ■その他 ・進学者数: 4人 ・一時的な仕事について: 14名 ・上記以外の者: 0名 (令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報) <table border="1"> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> <tr> <td>救急救命士</td> <td>②</td> <td>78人</td> <td>66人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	救急救命士	②	78人	66人								
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																				
救急救命士	②	78人	66人																				
中途退学の現状	■中途退学者 7名 平成31年4月1日時点において、在学者248名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者241名(令和2年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 学力不振・経済的理由・進路変更など ■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等 導入教育の充実、個人面談、三者面談の実施など		■中退率 2.8%																				
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 無 ※有の場合、制度内容を記入 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																						
当該学科のホームページURL					https://www.toyairyu.ac.jp/gakka/elt/																		

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、「就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。
※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度中に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等につ

3. 主な学修成果(※3)
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

学校法人新歯会東洋医療学園が設置する東洋医療専門学校の教育課程の編成における基本方針は、企業・業界団体等の意見を活かし、必要となる最新の知識、技術を反映させることが重要であり、今後さらなる連携体制を構築していかなければならないと考えている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

東洋医療専門学校教育課程編成委員会規程第2条に明記されているように教育課程編成委員会は、法人の最高意思決定機関である法人理事会の直下に置かれている。組織図参照同規定第3条及び第4条のとおり理事長が事務局委員長となりその他の構成メンバーは法人理事会により承認される。具体的には学校の各セクションの責任者と、専門分野に関する企業の役員など広く選任されている。

教育課程編成委員会で得た企業等の意見や要望は学科内で要約されカリキュラムへの反映を事業計画発表会で共有し次年度事業計画に盛り込まれる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年7月31日現在

名前	所属	任期	学科	種別
正井 潔	NPO法人日本国際救急救助技術支援会 名誉理事長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	救急救命士学科夜間部	①
濱 輝香	海南省消防本部 通信係長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	救急救命士学科昼間部	③
【学内担当者】				
豊田 日出美	救急救命士学科 副学科長			
喜代平 要一	救急救命士学科 専任教員			

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

教育課程編成委員会は年2回開催される。また前期後期の授業開始前に時期には、実習座学指導を行う企業からの講師との意見交換や、情報共有の機会として講師会議を開催している。

(開催日時)

第1回 令和2年7月5日 10:00～12:00

第2回 令和2年11月8日 10:00～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

本年度は「基礎教育における取り組みの再構築」を重点項目として話し合った。企業委員からの意見を反映した重点目標は以下となり、次年度事業計画画中に実行していく。

- (短期)1. 新大阪駅での救護活動実施(あれば)後のレポート作成、周知に向けての啓発活動への取り組み
2. 実習等、実施したことの検証
- (中期)1. プレゼン力向上のためのルール作り。(発表者の当日指名等)
2. 学生が常に気を緩めないための行事やカリキュラム設定
- (長期)1. 国家試験100%へ向けて学生に与える3年間のテーマの持たせ方。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

日々進化する医療業界では、新しい技術や新しい知識の習得が重要である。企業と連携した実習・演習を通じ、最先端の技術・知識習得を目的としている。また、技術・知識だけでなく目指す業界の方々と接することにより学習意欲就業意欲向上を目指している。

実習・演習等で学んだ知識・技術が将来における臨床現場で活用され、理論と実践を結びつけて理解できる能力を養うとともに、実社会におけるルール等を肌で感じ職業観・勤労観を育成するとともに、自らの適性を見つめながら具体的な将来像を描き、社会人としての総合的な人間力を高めることを基本方針としている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

学外では実習指導要領に基づいて、企業と実習履修内容の詳細打ち合わせを事前に実施し、学内での事前オリエンテーションでは考え方・行動・姿勢を十分説明し、企業および担当者にも失礼の無いよう指導する。この実習期間中は企業担当者と担当教員で問題点の有無を相談し、問題点が発生すれば対応を行う。学内の演習においては業界が求める人材に必要な到達度について企業と事前に授業内容の打ち合わせを行った上で授業計画を立案し、それに基づいた演習の実施・及び評価を行う。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
病院内実習	救急医療施設の役割や救急患者の病態・処置を学び、救急現場での判断・解決能力を養う。これまでの講義や実技訓練で体得した知識・手技を実際の救急現場で活用する。	大阪警察病院、奈良県立医科大学附属病院、和歌山県立医科大学附属病院、近畿大学医学部附属病院、大阪府済生会、千里病院千里救急救命センター、北摂総合病院、河内総合病院
救急用自動車・同乗実習	急救士法第34条第1号に基づき、救急救命士養成所指定規則第4条、指定基準の3による実習。座学で学んだ「基礎医学知識」及び「技術」を基に傷病者から得られた観察結果等を常に把握することで現場活動能力を養う。	湖南広域消防局
情報科学	就職先で必要になるコンピュータの基本操作を身につけ、簡単な文書作成、計算処理ができる情報モラルを身につけ、情報化社会でのルールを守るパソコンの基本操作およびWord、Excelの基本操作の習得。	株式会社ワークアカデミー

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員の授業内容・方法及びクラス運営方法を改善し向上させるとともに、マネジメント能力を含む指導力の習得、資質・能力の向上を研修の基本方針としている。

教職員研修規程に基づき、担任マニュアル・教職員研修マニュアル・講師マニュアルに則り研修を実施している。具体的には、業界で求められる最新の知識・技術を習得するため業界が主催する学会への参加、大阪府専修学校各種学校連合会の主催する教員研修に積極的に参加している。

滋慶学園グループ内では教育の質的向上を目指すために独自の研究機関として滋慶教育科学研究所を設置し、教育システムの構築・教育ノウハウの蓄積を行っている。また専門分野に分かれた委員会が設置されており、より教育の質向上に向けた研修が行われている。その他としては、学生指導に関わる人・カリキュラム・教材・環境に関する各委員会による研修も行っている。

毎年度研修計画を事業計画で立案し、教職員のキャリアや専門分野に沿った内容の研修をピックアップし、計画的に研修に参加させている。

(2) 研修等の実績 (平成31年4月～令和2年3月)

① 専攻分野における実務に関する研修等

1	日時	令和元年5月17日
	場所	豊中市立文化芸術センター
	出席者	豊田、森本
	研修名	近畿救急医学研究会 第160回救急隊員部会
	内容	大阪府の災害医療・災害時の消防と医療の協働についての基調講演及び各消防の取組
2	日時	令和元年5月30日～6月1日
	場所	和歌山県民文化会館など
	出席者	神納、寺師
	研修名	第22回日本臨床救急医学会
内容	救急医療のリアリティ(医師、看護師、救命士それぞれの立場からの救急医療を考える)	
3	日時	令和元年7月20日
	場所	大阪
	出席者	神納、豊田
	研修名	第120回近畿救急医学研究会
内容	病院前救護の研究会	
4	日時	令和元年9月1日
	場所	インテックス大阪
	出席者	豊田
	研修名	第3回ITソリューションEXPO
内容	授業ソールのIT化など	
5	日時	2020年1月30,31日
	場所	仙台
	出席者	神納、他
	研修名	第28回救急隊員シンポジウム
	内容	病院前救護のシンポジウム

② 指導力の修得・向上のための研修等

1	日時	令和元年6月9日
	場所	枚方公済病院
	出席者	大崎
	研修名	JPTEC大阪
	内容	インストラクターとしてのコース参加
2	日時	令和元年7月11日
	場所	進研アド大阪本社会議室park1.2
	出席者	豊田、喜代平、久保田、大崎
	研修名	初年度教育セミナー
内容	初年度教育について成功事例からの学び、低学力層への効果的なアプローチ	
3	日時	令和元年8月20,21日
	場所	帝京大学
	出席者	神納、近道、寺師、喜代平
	研修名	JESA総会、教育大会
内容	救急救命士養成所	
4	日時	令和元年9月4日
	場所	太閤園
	出席者	豊田
	研修名	滋慶カウンセラー研修1次2次
内容	上記研修時のインストラクション参加	
5	日時	令和元年11月14日
	場所	東洋医療専門学校
	出席者	神納、豊田、近道
	研修名	JESC(大阪ブロック講習)
	内容	(学生急変時の対応について)滋慶グループの講習会へコーディネーターとして参加

(3) 研修等の計画（令和2年4月～令和3年3月）

① 専攻分野における実務に関する研修等

1	日時	令和2年7月4日
	場所	国際障害者交流センター
	出席者	神納 他
	研修名	第122回 近畿救急医学研究会
	内容	働き方改革と救急医療 → 新型コロナ感染拡大と参加者の安全確保のため中止
2	日時	令和2年8月20,21日
	場所	京都橋大学
	出席者	神納 他
	研修名	JESA総会及び研修会
内容	救急救命士養成施設の情報交換と研修 → 新型コロナ感染予防のためWeb参加	
3	日時	令和2年8月27,28日
	場所	国土館大学
	出席者	神納、寺師 他
	研修名	第23回日本臨床救急医学会総会・学術集会
内容	病院前医療における多職種連携の多様性と将来像 → 新型コロナ感染予防のためWeb参加	
4	日時	令和2年11月18～20日
	場所	岐阜 長良川国際会議場 等
	出席者	神納 他
	研修名	第48回 日本救急医学会総会・学術集会
内容	Fight against Time	
5	日時	令和3年1月28,29日
	場所	フェニーチェ堺、ホテル・アゴーラ リージェンシー大阪堺
	出席者	神納 他
	研修名	第29回全国救急隊員シンポジウム
	内容	救急救命士制度発足30年目の決意 Professional Autonomyの確立

② 指導力の修得・向上のための研修等

1	日時	令和2年9月18日
	場所	東洋医療専門学校
	出席者	学科教員全員
	研修名	学会勉強会
	内容	研究における調査・分析方法等の基本について
2	日時	2020年11月2日・3日
	場所	大阪府立国際会議場
	出席者	寺師
	研修名	第22回日本救急看護学会学術集会
内容	危機の時代と救急看護 → 新型コロナ感染予防のためWeb参加	
3	日時	未定
	場所	大阪、滋賀
	出席者	大崎
	研修名	ICLSコース
内容	インストラクターとしてのコース参加	
4	日時	未定
	場所	大阪、滋賀
	出席者	大崎
	研修名	PBECコース
内容	インストラクターとしてのコース参加	
5	日時	2021年2月頃
	場所	未定
	出席者	田中、野村、大崎
	研修名	JPTEC近畿
	内容	インストラクターとしてのコース参加

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己点検・評価結果について学校職員以外の関係者による評価を行うため、各校に学校関係者評価委員会を置き、自己点検・評価結果の客観性・透明性を高め、学校の利害関係者の学校運営への理解促進や連携協力による学校運営の改善を目的とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	・理念・目的・育成人材像は定められているか・学校の特色は何か・学校の将来構想を抱いているか

(2) 学校運営	・運営方針は定められているか・事業計画は定められているか・運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか・人事や資金での処遇に関する制度は整備されているか・意思決定システムは確立されているか・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	・各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか・修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか・カリキュラムは体系的に編成されているか・学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか
(4) 学修成果	・キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか・授業評価の実施・評価体制はあるか・育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか・教員の専門性を向上させる研修を行っているか・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか・資格取得の指導体制はあるか
(5) 学生支援	・就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか・資格取得率の向上が図られているか・退学率の低減が図られているか・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(6) 教育環境	・就職に関する体制は整備されているか・学生相談に関する体制は整備されているか・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか・学生の健康管理を担う組織体制はあるか・課外活動に対する支援体制は整備されているか・学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか・保護者と適切に連携しているか・卒業生への支援体制はあるか・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか・学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか・防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	・学生募集活動は、適正に行われているか・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか・入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか・学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか・財務について会計監査が適正に行われているか・財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	・法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか・自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか・自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11) 国際交流	・グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

R2年7月5日 学校関係者評価委員会議事録から抜粋

内容	学校関係者評価委員からの意見	活用方法
学校全体	<p>■教育成果 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか</p> <p>【企業・歯科技工】 各学科の持つ特色を活かした就職先を検討していくのはどうか。</p> <p>【卒業生・救急】 地方公務員採用試験対策は最重要だと思います。</p> <p>【企業・鍼灸】医療業界では利益追求はタブー視されているところがあるが、売り上げを上げているからこそ、給与が支払われていることを理解できているか？</p> <p>【企業・柔整】欠勤する際、退職する際のマナーなど、そういった点も理解させてほしい</p> <p>【高等学校】コロナ禍で大変ですが就職先の確保をお願いします。</p>	<p>■教育成果 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか</p> <p>・早期離職抑制のため、卒業生による業界ガイダンスを実施。仕事のやりがいや現場のリアルな話を聞き、業界の理解、ギャップをなくしていくとともに、現在学んでいることが将来に繋がっているということを実感させ、退学者の抑制にも努める。</p> <p>・経営マネジメントの授業において、医療従事者としてだけでなく、経営者として必要なお金についても学ぶ。</p> <p>・社会人直前講座を実施し、新入社員にとって求められる知識(電話応対、受付マナー、名刺の渡し方、上座下座の理解など)について学ぶ。また業界の人事担当者より、新入社員に求められる要素について説明を受ける。</p> <p>今年度はコロナ禍による求人減を想定し、早期から確保に努めていく</p>

救急救命士学科教育	<p>■教育成果 資格取得率の向上が図られているか</p> <p>・消防職員の救命士養成所では入所時には国試合格レベルに達しています。 2年生の時に国家試験合格レベルに達しているべきだと思います。</p>	<p>■教育成果 資格取得率の向上が図られているか</p> <p>1.学力低迷者が、就職試験に比重を重くしている間の専門知識の継続学習が困難となりがちである。低迷者は、常に専門科目の学習に着目させる。専門科目成績不振者は保護者理解の元、専門職採用の受験を制限する。</p> <p>2.1,2年の模擬試験の回数も増やして補習などを工夫していく。(国)</p>
-----------	--	--

学校関係者評価委員より得た意見については、運営会議・全体会議などにおいて学校全体で共有される。

- ・カリキュラムや指導方法への要望 → 学科ミーティングで改善策を協議し実行している。
- ・学校運営などへの要望 → 事業計画書に反映。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年7月31日			
名前	所属	任期	種別
小原 雅生	一般社団法人大阪府歯科技工士会南大阪支部 相談役	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	保護者
濱 輝香	海南市消防本部 通信係長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	卒業生
川畑 成希	はりもぐ鍼灸院 院長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	卒業生
布田 久登	ぬの整骨院 院長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	卒業生
小早川 真一	大阪府立寝屋川高等学校定時制 准校長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	高等学校
田中 利哉	有限会社 Zahn 代表	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	企業等(歯科技工士学科)
越智 章	株式会社 サクラ歯研 代表	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	企業等(歯科技工士学科)
正井 潔	NPO法人 日本国際救急救助技術支援会 名誉理事長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	企業等(救急救命士学科)
富永 礼子	一般社団法人鍼灸保険協会大阪 会長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	企業等(鍼灸師学科)
酒井 美登子	はりきゅう漢方薬おひさま 院長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	企業等(鍼灸師学科)
徳山 健司	公益社団法人大阪府柔道整復師会 会長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	企業等(柔道整復師学科)
小澤 庸宏	株式会社 小澤企画 代表取締役 デイサービスさずな 管理者	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	企業等(柔道整復師学科)
中村 義毅	中村鍼灸接骨院 院長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	企業等(柔道整復師学科)

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

公表方法→ホームページ

公開時期→9月に更新

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が保有する情報の公開及び開示に関し、学校が必要な事項を定め、当該情報を積極的に公開することにより、教育活動や取り組みについて広く社会に対する説明責任を果たすとともに、公正で透明性の高い運営を推進し、教育活動の改善や社会全体からの信頼の獲得に資することを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校長名、所在地、連絡先、沿革、学校の特徴(教育活動、カリキュラム) 教育目標、教育指導方針
(2)各学科等の教育	定員数、入学者数、在校生数、カリキュラム(科目編成、授業時間数)、進級・卒業の要件(成績評価基準、卒業の認定基準)、目指す資格・検定等、資格取得等の実績、卒業生数、卒業後の進路(進学者数、主な就職先、就職者数)
(3)教職員	教職員数(職名別)、教職員の組織・活動(教職員の研修・研究活動)
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み状況、就職支援への取組状況
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況、部活動・放課後活動・生徒会活動等の状況、家庭・地域・企業等との連携による取り組み、他の学校との連携による取り組み等の状況
(6)学生の生活支援	学生の生活指導への取組状況(指導上の諸問題(中途退学、不登校など)の状況及びそれに対する学校の対処や指導の状況、心のケアの体制整備等に関する状況、留学生支援や障がい者支援も含め学校が取り組む様々な学生支援)
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金の取り扱い(金額や納入時期等)、活用できる経済的就学支援措置の内容(授業料減免措置、奨学金等の案内)
(8)学校の財務	財務諸表
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果、評価結果を踏まえた改善方針
(10)国際連携の状況	外国の学校等との交流状況(教員・学生間交流や単位互換等に関する実績)
(11)その他	学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

方法	ホームページにて情報提供をおこなっている
URL	https://www.tovoirvo.ac.jp/gakko/iyuhou/
バナーの場所	本校HPのトップページ右上に「情報提供」のリンクバナー(網掛け白文字)を設置
提供形式	ページ内のテキスト・エクセル・PDF
検索について	各検索エンジンに「東洋医療専門学校 情報提供」を入力確定でページに移動可

授業科目等の概要

(医療専門課程救急救命士学科昼間部) 令和2年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実支	校内	校外	専任	兼任		
○			数学・物理学 Mathematics・Physics	公務員・社会人として求められる基礎学力の養成。	1前	45	3	○			○			○		
○			生物学 Biology	公務員・社会人として求められる一般知識を養成する。	1前	15	1	○			○				○	
○			文章読解(国語・英語) Reading Comprehension	公務員・社会人として求められる一般知識を養成する。	1後	15	1	○			○				○	
○			情報科学 Information Processing	コンピュータ処理の実例を通して基礎を理解する。	2通	30	2		○		○				○	○
○			教育学 Pedagogy	教育の原理を基礎知識として人間形成における教育の機能を理解する。	1前	15	1	○			○				○	
○			心理学 Psychology	発達心理・人格形成・人間の行動等を学ぶ。	1前	15	1	○			○				○	
○			法と倫理 Law & Ethics	倫理学：市民社会の成立・生命の尊厳・社会規範・宗教哲学等生命倫理をめぐる基本問題を学ぶ。	1前	15	1	○			○				○	
○				法学：現代法を中心に、基本権の構造および市民生活にかかわる法律的諸問題を学ぶ。	1前	15	1	○			○					○
○			地理・歴史 Geography & History	公務員・社会人として求められる一般知識を養成する。	1通	30	2	○			○				○	
○			政治・経済 Politics & Economics	公務員・社会人として求められる一般知識を養成する。	1後	15	1	○			○				○	
○			英語(医療英語) Medical English	医療英語を中心に救急現場での可能性を考えた英語力が習得できる。	1前	15	1	○			○				○	
○			英会話 English Conversation	コミュニケーション言語としての英会話の楽しさを学びとる。	1後	15	1	○			○				○	
○			保健・体育学 I Health & Physical Education I		1通	30	2		○		○	△			○	○

○		保健・体育学Ⅱ Health & Physical EducationⅡ	基礎体力を保持し、健全な身体機能の理解、増強の方法を学ぶ。 就職に関する体力試験に向けて、自己の健康管理方法を学ぶ。	2通	30	2		○	○	△		○	○
○		保健・体育学Ⅲ Health & Physical EducationⅢ		3通	30	2		○	○	△		○	○
○		総合基礎Ⅰ General BasicsⅠ	公務員・社会人として求められる一般知識を養成する。基礎学力の確認。	1通	15	1	○		○			○	
○		総合基礎Ⅱ General BasicsⅡ	公務員・社会人として求められる一般知識・知能を養成する。	2通	90	6	○		○			○	
○		総合基礎Ⅲ General BasicsⅢ	公務員・社会人として求められる一般知識・知能を養成する。 模擬試験・解説授業を通して総合的な判断力を養う。	3通	255	17	○		○			○	
○		解剖学・生理学 Anatomy・Physiology	人体の構造と機能を中心とした基礎的内容を学ぶ。	1前	60	4	○		○			○	
○		生化学 Biochemistry	生体を構成する物質の構造と機能、生体内での代謝や疾病時の変化等について基礎的事項を学ぶ。	1前	15	1	○		○			○	
○		病理学・法医学 Pathology・Forensic Medicine	病理学: 疾病の要因・回復の過程など病理学の基礎的内容を学ぶ。	1前	30	2	○		○			○	
○	法医学: 法律上の死の定義。問題となる医学的事項、損傷の成り立ちなどを中心に学ぶ。		1後				○		○		○		
○		微生物学 Microbiology	微生物の概要・感染・免疫・消毒と滅菌操作を中心に学ぶ。	1後	15	1	○		○			○	
○		薬理学 Pharmacology	薬剤の作用機序・適応・使用量や患者におよぼす影響を中心に学ぶ。	1後	30	2	○		○			○	
○		公衆衛生学 Public Health	健康の保持、予防医学の重要性を認識させ、公衆衛生分野を学ぶ。	1後	15	1	○		○			○	
○		社会保障・社会福祉 Social Security・Social Welfare	社会福祉と医療、社会保障の関連について学ぶ。	1後	15	1	○		○			○	
○		専門基礎分野 総括 Brushing up of	専門基礎分野について、復習と仕上げをする。	1通	30	2	○		○		○		
○		救急医療Ⅰ (概論・Ⅰ・Ⅱ・ 医用電子工学) Emergency Medical	概論: 救急医学の本質・医学の発達・生命倫理と医の倫理(インフォームドコンセントを含む)などの基本的な考え方を理解する。	1前	45	3	○		○			○	
○	救急医療Ⅰ: 救急医療の意義や、救急医療体制、災害医療、メディカルコントロール、プレホスピタルケアとは何かを学ぶ。		1後				○		○		○		

○		Philosophy Emergency Medical Treatment I	救急医療Ⅱ：救急時における患者搬送の体制、方法等救急活動の基本的事項を中心に学ぶ。	1 前			○								
○		Emergency Medical Treatment II Medical Electronic Engineering	医用電子工学：救急分野で使用されるME機器の基本原理・基本操作・安全性等についての知識を学ぶ。	1 後			○								
○		救急医療Ⅱ (接遇と安全管理) Reception & Services	救急医療における安全管理と接遇要領について学ぶ。	2 後	15	1	○								
○		観察・判断 Observation・ Decision	救急患者に対しての全身および局所の観察、緊急度重症度の判断とその対応を学ぶ。	1 後	20	1	○								
○		処置 Treatment	救急救命処置ならびに在宅療養者に対する処置について、その概念、目的、適応、手技、評価、合併症、留意点などを学ぶ。	1 後	40	2	○								
○		検査学 Clinical Examination	救急医療における検査の目的、種類、評価方法を学ぶ。	1 後	15	1	○								
○		放射線医学 Radiology	臨床で用いられる電磁放射線の基礎的事項と生物環境への影響、放射線防護などについて学ぶ。	1 後	15	1	○								
○		救急医学概論 総括 Brushing up of General Emergency Medicine	救急医学概論について、復習と仕上げをする。	1 後 2 後	30	2	○								
○		心肺停止 Cardio-Pulmonary Arrest	心肺停止の判断や、病態生理と救急処置法などを中心に学ぶ。	2 前	30	2	○								
○		ショック・循環不全 Shock・ Circulatory Failure	ショック・循環不全の病態生理と救急処置法などを中心に学ぶ。	2 前	15	1	○								
○		意識障害 Conscious Disturbance	意識障害の病態生理と救急処置法などを中心に学ぶ。	2 前	15	1	○								
○		救急症候学 Emergency Symptomatology	各種疾患の症候・病態生理について理解し、症候・病態ごとの観察・評価・処置について学ぶ。	2 前	45	3	○								
○		救急症候・ 病態生理学総 括 Brushing up of Emergency	救急症候・病態生理学について、復習と仕上げをする。	2 前	30	2	○								
○		疾病救急医学 Ⅰ (神経系・感覚器 口腔系) Neural Diseases・ Sensory & Oral Diseases	神経系疾患：神経の解剖・生理と主な疾患の症状・評価・鑑別・救急処置などを中心に学ぶ。	2 前	30	2	○								
○			感覚器系疾患：感覚器(眼科・耳鼻咽喉科・口腔外科)分野の解剖・生理と主な疾患の症状・評価・鑑別・救急処置などを中心に学ぶ。	2 後			○								
○		疾病救急医学 Ⅱ (呼吸器系・循環 器系)	呼吸器系疾患：呼吸器の解剖・生理と主な疾患の症状・評価・鑑別・救急処置などを中心に学ぶ。	2 前	30	2	○								

○	○	○	Environmental Diseases Poisoning	環境障害:環境因子による障害の発生機序、病態、症状、評価、鑑別、予後や救急処置等を学ぶ。	2後																	
○	○	○	外傷救急医学 総括 Brushing up of	外傷救急医学(環境障害・急性中毒を含む)について、復習と仕上げをする。	2通	30	2															
○	○	○	シミュレーション実習 I Simulation Training I	規律訓練、ロープ結索、止血・固定法、安全な患者搬送方法及び観察行為を中心とした救急隊員が行える応急処置の範囲を習得。シミュレーション訓練における評価を受ける。	1通	270	6															
○	○	○	シミュレーション実習 II Simulation Training II	医師の指示の下での救急救命処置を中心とした技術の習得。救急患者およびその家族に対するの接遇要領を学ぶ。シミュレーション訓練における評価を受ける。	2通	315	7															
○	○	○	シミュレーション実習 III Simulation Training III	実践的なシミュレーション実習を通し、現場で即戦力となる知識・技術を身につける。	3通	315	7															
○	○	○	病院内実習 Clinical Training	救急医療機関・救急救命士の役割を知り、実際の医療現場を通じて実践的な知識・技術・接遇を身につける。	2後 3前	168	3															
○	○	○	救急用自動車・同乗実習 I Ambulance Training I	学内の救急車、もしくは消防における同乗実習を通して救急処置の実践的な知識を身につける。	2通	45	1															
○	○	○	救急用自動車・同乗実習 II Ambulance Training II	学内の救急車、もしくは消防における同乗実習を通して救急処置の実践的な知識と応用力を身につける。	3通	45	1															
○	○	○	総合救急医療 I General Emergency	専門基礎分野を通して、救急救命士として求められる基礎分野の知識を身につける。	1通	15	1															
○	○	○	総合救急医療 II General Emergency	専門分野を救急救命士として求められる知識を総合的に身につける。	2通	15	1															
○	○	○	総合救急医療 III General Emergency	救急救命士として求められる知識を総合的に身につける。	3通	150	10															
合計						科目			2912単位時間(単位)													

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
間数の4分の3以上出席し、各教科の期末試験および模擬試験で、100点満点中60点以	1	学年の学期区分	前後期
	1	学期の授業期間	

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。